

遺族希望で移葬実現

文人の
武蔵野

古来欧州や中国には、文人政治家の伝統があります。日本は近代でその伝統が途絶えてしまいましたが、文人科学者の系統が生まれます。明治以来、特に医学者であり文学者である人物が多く、その始祖となるのが森田太郎(鷗外)です。

石見国津和野(島根県)で生まれた鷗外(1862〜1922年)は、10歳で父と

森鷗外 ②



三鷹市にある禅林寺

もに上京し、学問を修めま
す。軍医としてまた作家と
して、苦悩しながらも最先端
で活躍し、ドイツ留学や台湾
や小倉での勤務を経ますが、
人生の大半を東京で過ごし
ます。30歳で構えた自宅(千駄
木の観潮楼)で60歳の年に
最期を迎え、黄檗宗の弘福

寺(墨田区向島)に埋葬され
ます。

1927年(昭和2年)、
森家の墓地は弘福寺から禅林
寺に遷されます。関東大震災
の影響により移葬されたとも
言われています。ですが、震
災の翌年にも鷗外墓を詣でて
いる文人永井荷風(1879
〜1959年)の日記(『断腸
亭日乗』)を読むと、「弘
福寺焼跡は一面の花畑とな
り」とあるものの、墓地に変
化があった様子は見えませ
ん。また、文学散歩の第一
人者である野田宇太郎の聞
き取り調査によると、長男の
森於菟が同宗門での改葬を
住職に相談しており、特に中
央線沿線の武蔵野の三多摩
周辺を希望し禅林寺に決ま
ったそうです。その頃には弘

福寺も再建されていました
ので、遺族の希望により武蔵
野三鷹への移葬が実現した
と言ってもよいのではないで
しょうか。

43年(昭和18年)、鷗外を
師と仰ぎ敬愛する荷風は、鷗
外展覧のために、生まれて初
めて三鷹駅に降り立ちます。
(武蔵野大教授、むさし野文
学館館長・土屋忍)

(岩波書店提供)

おすすめの1冊

「断腸亭日乗」

日記文学の名作『断腸亭日乗』の文庫本
版です。上下巻あり、摘録ですが読み応え
があります。荷風が正月にスペイン風邪に
罹り快復したくんだり(上巻)や、初めて三
鷹を訪れた際に描いた禅林寺と鷗外墓のス
ケッチ(下巻)などは必見です。

